

令和 6 年度事業計画

(令和 6 年 5 月 1 日～令和 7 年 4 月 3 0 日)

基本方針

武者小路実篤が開いた理想郷「新しき村」は、大正 7 年に宮崎県木城町の山間部を開拓して、一定の労働をすれば誰もが衣食住が平等に保証されるという人間らしい生活の場としてスタートしました。

その後、ダム建設で主な農地が沈むことにより、昭和 1 4 年に現在の場所（埼玉県入間郡毛呂山町）に本拠地を移しました。

以来、多くの村民が入村、離村を繰り返しながら村民の努力、そして村外会員の温かい支援により自活した運営が 1 0 0 年以上続いています。

現在、村内会員は 3 名に減りましたが、村外会員他多くのボランティアの人の協力を得て村の施設の維持等を行っています。

令和 6 年度の事業計画

1. 土地・施設の適正な維持管理

昨年度に引き続き、村の土地、施設の適正な管理運営を進めていきます。

特に、村は開拓当時から自然農法を中心とした生活が守られてきたことから、貴重な動植物の生息が近年の調査で確認されています。

今後も開拓当時の姿を維持・保全しながら時代に合わせた生活と景観を創っていきます。

このことから、当法人は、22 年前から当法人内の 2ha の田で稲作を無農薬・無化学肥料で行って来ました。無農薬・無化学肥料の稲作は、農薬を使ったときと比較すると 3 割位収穫が少なく稲作としては赤字ですが、それでもこの方式をとっているのは、当法人の目的は、稲作で収益をあげることではなく、自然環境を守ることから行っています。この営農方法を採用したことにより無農薬にしてから 5 年くらい経った年からゲンジボタルが飛ぶようになりました。また、本年 3 月村外会員の稲垣喜弘さんが埼玉県の学芸員の方に村の生物について調査してもらったところ、絶滅危惧種であ

るニホンアカガエルが村に多く生息していることがわかり、埼玉県有数の繁殖地であると評価されました。

埼玉県には、生物多様性保全活動団体の登録制度があります。当法人は、村内会員及び村外会員である稲垣さんを初め多くの方がボランティアとして村の自然保護するための活動に協力してもらっています。このことから、当法人が行っている自然環境を守る活動の内容は、生物多様性活動をしている団体に該当するので埼玉県に対し団体登録の申込をしたいと思います。

団体として行う主な活動内容は以下の通りです。

1. 植物、野鳥、両性爬虫類、魚類、昆虫調査（モニタリング）
2. 有機農法による水田等の農業活動によるサンショウモ、キクモ、ウリカワ、イチョウウキゴケ、ニホンアカガエル、シュレーゲルアオガエル、アズマヒキガエル、ヒバカリ、ヒガシニホントカゲ、ホトケドジョウ、ミナミメダカ、オオタニシ、コオイムシ、イチモンジセセリ、ミスジチョウ、キイトトンボ、ゲンジボタルなどの希少種の保全
3. アレチウリ、オオキンゲイギク、ナガミヒナゲシなどの駆除
4. 来訪者へのリーフレット等の配布による保全の啓蒙活動

2. 美術館・生活館の運営事業

美術館は、武者小路実篤直筆の書物や絵画が展示されている貴重な資料の展示場で、末永く保存、展示する必要があります。

しかしながら、近年は時代の変化やコロナ禍で、入館者が減少しています。

当財団の美術館は、毛呂山町はもとより、県や国の貴重な財産であるとの考えから、武者小路実篤の存在を、より多くの人々に知っていただくため、美術館内の作品等の適正な管理に努めるとともに、ホームページの更新をはじめ、あらゆる広告媒体を駆使して来館者の増加に結びつけていきます。

また、貴重な資料を病虫害から守るため、館内や美術品の燻蒸を実施します。

3. 機関誌の継続発行

より見やすく、分かりやすく、そして身近な情報をタイムリーにお知らせするため、昨年度より機関誌をリニューアルしました。

年4回の発行を継続し、村の動きを関係者の皆さんにお知らせするなど、

紙面の内容充実に努めていきます。

また、昨年から調布の武者小路実篤美術館で機関誌を販売してもらっており、今後も購読者を増やす取り組みを行ってみたいと思います。

4. 村の年間行事

公益法人化への移行を見据えた事務局の組織体制が整いましたので、今年度は下記の事業に重点を置いて取り組んでいきます。

- ① 地域に開かれた村の姿を、多くの住民に知って頂くための事業を実施します。（例えば、ホタル観賞会、創立記念祭、農産物収穫祭、個人・団体の作品展示会など）
- ② 村の敷地内にある住宅と田畑、山林を、保存、手入れ等に分類した「整備計画書」を策定し、計画的に整備を進めていきます。

以上